

クリサンセマム・ノースポール



別名	クリサンセマム・パルドーサム
植物分類	キク科キク属
園芸分類	秋まき1年草
原産地	地中海沿岸（ヨーロッパ、アルジェリア）

クリサンセマムとはキク属の植物を総称する言葉で、その意味は〈黄色い花〉。黄色い花の原種がたくさんありますが、白や桃色、赤といった花色を持つものも少なくありません。

しかし、園芸上でクリサンセマムと呼ぶときは意味が狭く、1～2年草の中の数種を指すことがほとんどです。

ノースポールは比較的新しく園芸的に利用され始めた花で、草丈は低く、わき枝をさかんに伸ばし、高さ、株張りとも30cmくらいに茂ってきます。花径2cmの白い一重の花びらに黄色い目をもった、ぱっとした小花を群開させます。

栽培特性・管理のポイント

< 定植 >

日当たり、水はけのよい土を好み、寒さに強く強健です。冬の間も少しずつ花を咲かせています。

春には株も充実し、初夏（6月頃）まで咲き続け、清純な美しさがあって、現在では春花壇に欠かせない存在です。

< 管理 >

過湿に弱く、水をやりすぎると根腐れをおこします。ある程度の乾燥にも耐えるので、水遣りは回数を控えめに、土の表面が乾いてきたら午前中にたっぷりを与えます。

肥料はひかえめにする方が葉が茂りすぎなくてよいでしょう。

最初の追肥は植えてからひと月後に、その後は、ふた月に一度、ゆっくり効くタイプの化成肥料を施します。

また、暖かくなってくるとアブラムシがつきやすくなるので注意。発生初期、株元にオルトラン粒剤を施すとよいでしょう。

長期間花を楽しむためには、花がらはこまめに摘み取りましょう。ひと通り花が咲き終わったら、花茎の半分くらいに切り戻しをするとワキから茎が伸び、再び花を咲かせます。

またこぼれ種でも殖え、翌年はあちこちに自然の花壇ができます。